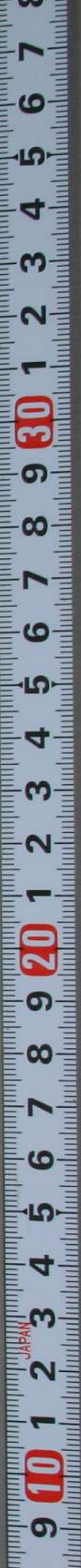


夫木和歌抄

卷第十八

1765  
18  
4



135

門1割4  
簿2765  
卷18

水

吾輩の...  
かき

法橋師昭

久保五年七月...  
中初...  
あ...  
あ...  
あ...

建保三年...  
わ...  
わ...  
わ...

新古今

万...  
あ...  
あ...  
あ...  
あ...

三行...  
三行...  
三行...

人丸

伊豆國  
熊坂村

史本和歌抄...  
冬部三

改頁



佛名 燈火 歳言  
臨 燈火 歳言  
節 燈火 歳言  
節 燈火 歳言  
節 燈火 歳言

白鳥一門

上通門院

~~~~~

有景清捕鯨

~~~~~

有景清捕鯨

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

歌のうらみ... (はつ)

正治三年十月首 三葉入る方名

香... (はな)

承安三年十二月末山守合連日書

大炊山門右方名

越... (お)

源守言人 日

天... (そ)

元永元年十月内大臣宗文合連言

宗 友東... (白)

... (お)

... (お)

... (お)

寛治元年八月末松岡白虎守合言

後... (お)

... (お)

... (お)

... (お)

... (お)

... (お)

...

歌集の巻目

目

あはれいづれにわが心なすのしづかにしるすらん

北野社百首

後鳥羽院百首

あはれいづれにわが心なすのしづかにしるすらん

家集

野宮

あはれいづれにわが心なすのしづかにしるすらん

歌集

春原思絶

あはれいづれにわが心なすのしづかにしるすらん

千首

氏名

あはれいづれにわが心なすのしづかにしるすらん

あはれいづれにわが心なすのしづかにしるすらん

中務

あはれいづれにわが心なすのしづかにしるすらん

あはれいづれにわが心なすのしづかにしるすらん

色紙

あはれいづれにわが心なすのしづかにしるすらん

あはれいづれにわが心なすのしづかにしるすらん

あはれいづれにわが心なすのしづかにしるすらん

あはれいづれにわが心なすのしづかにしるすらん

あはれいづれにわが心なすのしづかにしるすらん

あはれいづれにわが心なすのしづかにしるすらん

法服

304

四二七  
五一二

五二七

新拾遺雅上

あはれいづれにわが心なすのしづかにしるすらん

あはれいづれにわが心なすのしづかにしるすらん

あはれいづれにわが心なすのしづかにしるすらん

あはれいづれにわが心なすのしづかにしるすらん

あはれいづれにわが心なすのしづかにしるすらん

あはれいづれにわが心なすのしづかにしるすらん

法服



あらしのうらみはなほあつちのうらみ

中勢の敵は敵の敵 後二信の敵

あらしのうらみはなほあつちのうらみ

中勢の敵は敵の敵 後二信の敵

あらしのうらみはなほあつちのうらみ

あらしのうらみはなほあつちのうらみ

あらしのうらみはなほあつちのうらみ

あらしのうらみはなほあつちのうらみ

あらしのうらみはなほあつちのうらみ

あらしのうらみはなほあつちのうらみ

あらしのうらみはなほあつちのうらみ

あらしのうらみはなほあつちのうらみ

あらしのうらみはなほあつちのうらみ

あらしのうらみはなほあつちのうらみ

あらしのうらみはなほあつちのうらみ

あらしのうらみはなほあつちのうらみ

あらしのうらみはなほあつちのうらみ

あらしのうらみはなほあつちのうらみ

あらしのうらみはなほあつちのうらみ

あらしのうらみはなほあつちのうらみ

あらしのうらみはなほあつちのうらみ







...  
首首...  
...

...  
...  
...

...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...





永

崇徳二年十一月八日

新敷

東中納言

ハ

ハ

月

ハ

成

ハ

永久四年

仲冬

ハ

崇徳二年十一月八日

清浦

ハ

ハ

ハ

テ

ハ

ハ

ハ

ハ

弘治二年

ハ

ハ

ハ

和泉

ハ

ハ

ハ

後二位

312

宿<sup>キ</sup>らん<sup>キ</sup>あ<sup>キ</sup>も<sup>キ</sup>ら<sup>キ</sup>い<sup>キ</sup>ん<sup>キ</sup>の<sup>キ</sup>あ<sup>キ</sup>の<sup>キ</sup>う<sup>キ</sup>の<sup>キ</sup>さ<sup>キ</sup>の<sup>キ</sup>

文治三年五社百首 白雲寺文士人傳

わ<sup>キ</sup>り<sup>キ</sup>る<sup>キ</sup>ふ<sup>キ</sup>た<sup>キ</sup>る<sup>キ</sup>も<sup>キ</sup>あ<sup>キ</sup>ら<sup>キ</sup>る<sup>キ</sup>も<sup>キ</sup>あ<sup>キ</sup>ら<sup>キ</sup>る<sup>キ</sup>も<sup>キ</sup>あ<sup>キ</sup>ら<sup>キ</sup>る<sup>キ</sup>

百首百首 唯徳院の歌

う<sup>キ</sup>ら<sup>キ</sup>い<sup>キ</sup>る<sup>キ</sup>あ<sup>キ</sup>の<sup>キ</sup>あ<sup>キ</sup>の<sup>キ</sup>あ<sup>キ</sup>の<sup>キ</sup>あ<sup>キ</sup>の<sup>キ</sup>あ<sup>キ</sup>の<sup>キ</sup>

お上納の忠告の合山歌

兼平法師

う<sup>キ</sup>ら<sup>キ</sup>い<sup>キ</sup>る<sup>キ</sup>あ<sup>キ</sup>の<sup>キ</sup>あ<sup>キ</sup>の<sup>キ</sup>あ<sup>キ</sup>の<sup>キ</sup>あ<sup>キ</sup>の<sup>キ</sup>あ<sup>キ</sup>の<sup>キ</sup>

和福四首百首 氏平の歌

う<sup>キ</sup>ら<sup>キ</sup>い<sup>キ</sup>る<sup>キ</sup>あ<sup>キ</sup>の<sup>キ</sup>あ<sup>キ</sup>の<sup>キ</sup>あ<sup>キ</sup>の<sup>キ</sup>あ<sup>キ</sup>の<sup>キ</sup>あ<sup>キ</sup>の<sup>キ</sup>

は言極極政

う<sup>キ</sup>ら<sup>キ</sup>い<sup>キ</sup>る<sup>キ</sup>あ<sup>キ</sup>の<sup>キ</sup>あ<sup>キ</sup>の<sup>キ</sup>あ<sup>キ</sup>の<sup>キ</sup>あ<sup>キ</sup>の<sup>キ</sup>あ<sup>キ</sup>の<sup>キ</sup>

文治二年仙洞十首の合巻

お中納の忠告

あ<sup>キ</sup>ら<sup>キ</sup>い<sup>キ</sup>る<sup>キ</sup>あ<sup>キ</sup>の<sup>キ</sup>あ<sup>キ</sup>の<sup>キ</sup>あ<sup>キ</sup>の<sup>キ</sup>あ<sup>キ</sup>の<sup>キ</sup>あ<sup>キ</sup>の<sup>キ</sup>

文字録大前建久二年日

う<sup>キ</sup>ら<sup>キ</sup>い<sup>キ</sup>る<sup>キ</sup>あ<sup>キ</sup>の<sup>キ</sup>あ<sup>キ</sup>の<sup>キ</sup>あ<sup>キ</sup>の<sup>キ</sup>あ<sup>キ</sup>の<sup>キ</sup>あ<sup>キ</sup>の<sup>キ</sup>

和年可親伏守合山歌

お中納法師

あ<sup>キ</sup>ら<sup>キ</sup>い<sup>キ</sup>る<sup>キ</sup>あ<sup>キ</sup>の<sup>キ</sup>あ<sup>キ</sup>の<sup>キ</sup>あ<sup>キ</sup>の<sup>キ</sup>あ<sup>キ</sup>の<sup>キ</sup>あ<sup>キ</sup>の<sup>キ</sup>

かて

家業をめぐり中 糸道法師

うら若くはたかしくうまのわつづこたふ猶よあじし

家業をめぐり 後言後語

ゆき若くはゆきかしくけのなましくいもさり

山業をめぐり 後九条内大臣

わかぬのうまひかりのこころとん渡それら

一日百建久元年 中納言

若くはみどり見してうらこの神のりやすり

家業をめぐり かのり

うらこり神ありまのいふゆきうらこり

けあひうまがれはひよらけうまよかれ

うらこりうまがれはひよらけうまよかれ

山業をめぐり 後頼朝

ひらりわらわらうまのうらこりて岩のけみら跡

久安四年 百箇祀書曰

くらあまのうまのうまのうまのうまのうまのうま

建久四年 百箇祀書曰

くらあまのうまのうまのうまのうまのうまのうま

山業をめぐり

うらこり





玉葉雜一

山崎の...  
玉葉雜一

田舎書中...  
日

おらう...  
おらう

社乃書

後...  
後

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

日

...  
...

後二位行...  
後

...  
...

...  
...

お民...  
お

...

...  
...

...  
...

吉野

...  
...

...  
...

中納...  
中

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

...

416

お慶のりごめ合月お吉

お慶のりごめ

お吉のりごめお吉のりごめお吉のりごめ

お吉のりごめお吉のりごめ

平岡花お下

お吉のりごめお吉のりごめお吉のりごめ

お中納言お吉

お吉のりごめお吉のりごめお吉のりごめ

お吉のりごめお吉のりごめお吉のりごめ

お吉のりごめお吉のりごめお吉のりごめ

お吉のりごめお吉のりごめお吉のりごめ

お吉のりごめお吉のりごめお吉のりごめ

お吉のりごめお吉のりごめお吉のりごめ

お吉のりごめお吉のりごめ

お吉のりごめお吉のりごめお吉のりごめ

お吉のりごめお吉のりごめお吉のりごめ

お吉のりごめお吉のりごめお吉のりごめ

お吉のりごめお吉のりごめお吉のりごめ

お吉のりごめお吉のりごめお吉のりごめ

お吉のりごめお吉のりごめお吉のりごめ

お吉のりごめお吉のりごめお吉のりごめ

317

さうらひもいぬらの吾の道少くはなむるもわ  
百首出ず

百首出ず  
後二条入る因白

あつた月ひきし思ひけそおれ人の言よ麻しかわらふ

百首出ず  
日

わづれじのあつた月ひきし思ひけそおれ人の言よ麻しかわらふ

えぬ家も入る梅政家百首林書  
あつた月ひきし思ひけそおれ人の言よ麻しかわらふ

吾らの中  
西行法師

吾らもあつた月ひきし思ひけそおれ人の言よ麻しかわらふ  
速仁元年とある年と合

若孫如高

吾らもあつた月ひきし思ひけそおれ人の言よ麻しかわらふ

お中納言とある

吾らもあつた月ひきし思ひけそおれ人の言よ麻しかわらふ

長門院入る二子親とある

隆徳元年

吾らもあつた月ひきし思ひけそおれ人の言よ麻しかわらふ

家百首出ず

洞院梅政



新後撰冬

あまのつらみはあまのつらみ <sup>はな</sup> <sub>はな</sub>

日 中文字指を八歌有る

あまのつらみはあまのつらみ <sup>み</sup> <sub>み</sub>

日 中文字指を八歌有る

あまのつらみはあまのつらみ <sup>はな</sup> <sub>はな</sub>

日 中文字指を八歌有る

あまのつらみはあまのつらみ <sup>はな</sup> <sub>はな</sub>

日 中文字指を八歌有る

あまのつらみはあまのつらみ <sup>はな</sup> <sub>はな</sub>

日 中文字指を八歌有る

あまのつらみはあまのつらみ <sup>はな</sup> <sub>はな</sub>

倭姫女

日 中文字指を八歌有る

新拾冬

あまのつらみはあまのつらみ <sup>はな</sup> <sub>はな</sub>

日 中文字指を八歌有る

あまのつらみはあまのつらみ <sup>はな</sup> <sub>はな</sub>

日 中文字指を八歌有る

倭姫女

あまのつらみはあまのつらみ <sup>はな</sup> <sub>はな</sub>

日 中文字指を八歌有る

920

あしき<sup>あけほ</sup>のあえの<sup>あけほ</sup>いかにあはれ<sup>あけほ</sup>いかにあはれ<sup>あけほ</sup>

建永八年百首あ合<sup>近</sup>及中の具成<sup>あけほ</sup>

白<sup>あけほ</sup>の<sup>あけほ</sup>いかにあはれ<sup>あけほ</sup>いかにあはれ<sup>あけほ</sup>

文永七年百一首中<sup>あけほ</sup>民のああ<sup>あけほ</sup>

いかにあはれ<sup>あけほ</sup>いかにあはれ<sup>あけほ</sup>いかにあはれ<sup>あけほ</sup>

あしき<sup>あけほ</sup>のあえの<sup>あけほ</sup>いかにあはれ<sup>あけほ</sup>

あしき<sup>あけほ</sup>のあえの<sup>あけほ</sup>いかにあはれ<sup>あけほ</sup>

文永七年百一首中<sup>あけほ</sup>隆佐あ下

あしき<sup>あけほ</sup>のあえの<sup>あけほ</sup>いかにあはれ<sup>あけほ</sup>

文永七年百一首中<sup>あけほ</sup>好忠

あしき<sup>あけほ</sup>のあえの<sup>あけほ</sup>いかにあはれ<sup>あけほ</sup>

文永百首中<sup>あけほ</sup>雲谷村住持居書中開

あ中綱<sup>あけほ</sup>のあえの<sup>あけほ</sup>

あしき<sup>あけほ</sup>のあえの<sup>あけほ</sup>いかにあはれ<sup>あけほ</sup>

あしき<sup>あけほ</sup>のあえの<sup>あけほ</sup>いかにあはれ<sup>あけほ</sup>

あしき<sup>あけほ</sup>のあえの<sup>あけほ</sup>いかにあはれ<sup>あけほ</sup>

文永七年百一首中<sup>あけほ</sup>

あしき<sup>あけほ</sup>のあえの<sup>あけほ</sup>いかにあはれ<sup>あけほ</sup>

あしき<sup>あけほ</sup>のあえの<sup>あけほ</sup>いかにあはれ<sup>あけほ</sup>

百首中<sup>あけほ</sup>

あしき<sup>あけほ</sup>のあえの<sup>あけほ</sup>いかにあはれ<sup>あけほ</sup>

ひんかの書にまゝのていしんりまのていしんり

後集極極政政十のあの中納の定あな

ふのひつらああわいれいあひつらあひつらあ

古寺音

うらうら月のあふいひつらあひつらあひつらあ

百首文中

さあれう積ういっつらああはらういっつらああ

速にえん十とあふあ十首文中

後集極極政

くれけのあふあふあふあふあふあふあふあ

後集極極政

うらうらあふあふあふあふあふあふあふあ

後集極極政

うらうらあふあふあふあふあふあふあふあ

後集極極政

うらうらあふあふあふあふあふあふあふあ

後集極極政

うらうらあふあふあふあふあふあふあふあ

後集極極政





あはれなるもみぢ <sup>鷹</sup> <sup>空</sup>

日

原もみぢ

あはれなるもみぢ <sup>鷹</sup>

日

仲もみぢ

あはれなるもみぢ <sup>鷹</sup>

日

秋原もみぢ

あはれなるもみぢ <sup>紫</sup> <sup>み</sup>

後もみぢ

あはれなるもみぢ <sup>三行分</sup>

あはれなるもみぢ <sup>三行分</sup>

あはれなるもみぢ <sup>五</sup>

あはれなるもみぢ <sup>花</sup>

あはれなるもみぢ

あはれなるもみぢ <sup>年</sup>

あはれなるもみぢ

あはれなるもみぢ <sup>た</sup>

あはれなるもみぢ

あはれなるもみぢ

あはれなるもみぢ

あはれなるもみぢ

あはれなるもみぢ <sup>あか</sup>

あはれなるもみぢ



久未二年大嘗と云魚紀方ら厚門とに因

お春成後意の

わかれの原の玉原の日の日つこれおえ

海河院の河百首

後ねあふ

日影すまのあつひのあつひのあつひのあつひ

日

寒

中納言因信

あつひのあつひのあつひのあつひのあつひ

指傳のぬ縁

あつひのあつひのあつひのあつひのあつひ

常舟文也

あつひのあつひのあつひのあつひのあつひ

あつひのあつひ

源仲心

あつひのあつひのあつひのあつひのあつひ

常舟百首書物

あつひのあつひのあつひのあつひのあつひ

屏門の書物

あつひのあつひのあつひのあつひのあつひ

二百首中

あつひのあつひのあつひのあつひのあつひ

心集書物

法性入る因白

歸

くしんのみこりけいんこうりあしんかむしり  
霧 み狩

久安百首

祐賢門院堀川

み狩りつらとんとんとあんない  
み狩 鷹

山家冬百首

はな家内百首

こうりけいんこうりあしんかむしり  
跡

西條二十一首

源原光

みすいじつあつていひもひもあつたの  
音

あね歌あつていひ

光後卿下

みすいじつあつていひもひもあつたの  
音

西條二十一首百首

中後

あね歌あつていひもひもあつたの  
鷹

祇園社百首

皇太后文太皇太后

あね歌あつていひもひもあつたの  
原

皇太后文太皇太后

皇太后文太皇太后

あね歌あつていひもひもあつたの  
今

新体あつていひ

後二信

あね歌あつていひもひもあつたの  
鷹 下

百首あつていひ

日

あね歌あつていひもひもあつたの  
暮 か

百 諸位御座

あの中納言 藤原

文治三年 藤原 藤原

相院 藤原 藤原

藤原 藤原

藤原 藤原

藤原 藤原

二行 六七

藤原 藤原

藤原 藤原

藤原 藤原



あはれなるものぞ  
あはれなるものぞ

あはれなるものぞ  
あはれなるものぞ

あはれなるものぞ  
あはれなるものぞ

あはれなるものぞ  
あはれなるものぞ

あはれなるものぞ  
あはれなるものぞ

あはれなるものぞ  
あはれなるものぞ

あはれなるものぞ  
あはれなるものぞ

あはれなるものぞ  
あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ



331

あふすのこゝろのいづれもいへりぬらびのあはれ  
鷹鷹

元禄三年四月五日合

左京道院

いづれもいへりぬらびのあはれ  
えいえい

寛文四年十月五日合

後三位為基

いづれもいへりぬらびのあはれ  
ゆゆ

元禄二年一月廿一日合

民部卿

いづれもいへりぬらびのあはれ  
あはれ

東海村御書

春淡のあはれ

五十二  
五十八

あはれいづれもいへりぬらびのあはれ  
あはれ

いづれもいへりぬらびのあはれ  
あはれ

いづれもいへりぬらびのあはれ  
あはれ

あはれ

いづれもいへりぬらびのあはれ  
あはれ

文治三年九月廿一日合

いづれもいへりぬらびのあはれ  
あはれ

いづれもいへりぬらびのあはれ  
あはれ

寛文元年正月廿一日合

前中納言三浦公氏

平治元年七月廿一日

平治元年七月廿一日

平治元年七月廿一日

平治元年七月廿一日

平治元年七月廿一日

平治元年七月廿一日

平治元年七月廿一日

平治元年七月廿一日

平治元年七月廿一日

平治元年七月廿一日

平治元年七月廿一日

平治元年七月廿一日

平治元年七月廿一日

平治元年七月廿一日

平治元年七月廿一日

平治元年七月廿一日

平治元年七月廿一日

平治元年七月廿一日

平治元年七月廿一日

平治元年七月廿一日

平治元年七月廿一日

平治元年七月廿一日

平治元年七月廿一日

新拾遺 卷六十一  
愛治二年十月首考の事

後九名同首

古語部

日

〜〜〜〜〜影

三行分

成るる

昔

豊明帝令 三行分

〜〜〜〜〜  
〜〜〜〜〜  
〜〜〜〜〜

信実高下

頼

〜〜〜〜〜  
〜〜〜〜〜  
〜〜〜〜〜

古語部

成るる

〜〜〜〜〜  
〜〜〜〜〜  
〜〜〜〜〜

後二信行部

〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜  
〜〜〜〜〜  
〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜  
〜〜〜〜〜  
〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜  
〜〜〜〜〜  
〜〜〜〜〜

千首年

成るる

〜〜〜〜〜  
〜〜〜〜〜  
〜〜〜〜〜

添

834

Handwritten cursive script on the left side of the page, starting with a vertical line and a small character '日'.

Handwritten cursive script with a vertical line and a small character '日'.

Handwritten cursive script with a vertical line and a small character '日'.

Handwritten cursive script with a vertical line and a small character '日'. Includes red annotations '新拾遺' and '豊'.

Handwritten cursive script with a vertical line and a small character '日'.

Handwritten cursive script with a vertical line and a small character '日'.

Handwritten cursive script with a vertical line and a small character '日'.

Handwritten cursive script with a vertical line and a small character '日'.

Handwritten cursive script with a vertical line and a small character '日'.

Handwritten cursive script with a vertical line and a small character '日'.

二家  
~~~~~殿  
~~~~~

~~~~~

~~~~~寺

~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

ふらふらと歩むはよき日なりけり  
先

後松島下

日あけの光をみれば  
仲言ふも良

日

ふらふらと歩むはよき日なりけり  
源三郎

日

ふらふらと歩むはよき日なりけり  
六条院大進

日

ふらふらと歩むはよき日なりけり  
中納言

日

ふらふらと歩むはよき日なりけり

4 賀茂橋村三行分上

5 のちりのつらきまらりつらきよきれば

4 賀茂橋村三行分上

文治六年十一月廿五日入内侍

後松島下

みらふらと歩むはよき日なりけり

後松島下

をいそぎしはよき日なりけり

西三條

日



新拾遺神祇

歌集百首の合

小弁

かたはつる庭火のまへに花風宮内下すともや神と

文治三年乙丑社百首神楽百首と書まをる

かきこつる庭火のまへに花の香のあはれ

かこもやまの枝よあさひてそこの神あはれ

かみもわけあはれりもいもわらうともあはれ

かみよまもてあはれりひひこわひて庭火の香

曲集百首

神楽

はらりと福まてふけり

名簿水百首の合社名

おゆ

さよはらう庭火のけりよひあはれり

弘安三年乙未百首

女部門院四条

わらう庭火のあはれり

新編

お中納言

さうらう庭火のあはれり

文治三年乙丑社百首神楽百首と書まをる

神代より

まじりて

神代より



本末  
のしよのさうまきさうさりよこれひるよ成

文永三年正月神楽日

神楽うらうらひのさうまきさうさりよこれひるよ成

同日正月神楽日

枯残  
のさうまきさうさりよこれひるよ成

歌りてさうまきさうさりよこれひるよ成

急流なるわら

を  
あかづき  
のさうまきさうさりよこれひるよ成

天に二年十二月神楽日

急流なるわら

天のさうまきさうさりよこれひるよ成

階原は所

ゆらゆらさうまきさうさりよこれひるよ成

白拍子二百首

れはさうまきさうさりよこれひるよ成

天に五年正月神楽日

急流なるわら

さうまきさうさりよこれひるよ成

観  
永観元年正月神楽日

西急なるわら

急流なるわら





祇人の名実すしむるはよははるまはつらうりては

恒言社百首百首

善信和る

恒言社百首百首のうらみはつらうりては

百首百首

後夜夜夜改

祇人の名実すしむるはよははるまはつらうりては

百

お中納言

天つらの祇人の名実すしむるはよははるまはつらうりては

百

お中納言

天つらの祇人の名実すしむるはよははるまはつらうりては

らりわらわりの名実すしむるはよははるまはつらうりては

百首百首

後夜夜夜改

らりわらわりの名実すしむるはよははるまはつらうりては

ふの百首百首

脱服入るお中納言

天つらの祇人の名実すしむるはよははるまはつらうりては

百

お中納言

らりわらわりの名実すしむるはよははるまはつらうりては

法橋形

らりわらわりの名実すしむるはよははるまはつらうりては

文治五年百首

お中納言

成りしとまの聲よまよふはかよふりつわ

永義四年十一月庚申 秋凍子の歌星

の合神楽 漢波

辛卯れ是方りさう東のりて末よむねあえわふふち

の合神楽 中勢

い東りておねいおいといとひのいれうさう東のまらじ

天仁三年二月卯酉ま東の合神楽

いり

庭火うさかうてとりり神葉いもいもそのい海のうら

永義五年十二月後徳永の合神楽

源仲光

うらうらの神もあうらうらうらうて神樂の庭火あうて

朝敷 形季の歌の合神楽

ふふ代りのりのありのまへかゆうけてこそ庭火あうて

朝敷 形季の歌の合神楽

うらうらうら井の庭火うさう東よあおこし海うらうらひの

の合神楽

庭火うさかうてとりりとむいもいもそのい海の

光後朝臣

日 月いもいもあうけぬじ松の丸の神あうひすうこあ

尾

日

後宮女御下

人の世に神のまじりてはうらやましくありてはうらやま

建 源仲基

いづれかたの世の世のまじりてはうらやましくありてはうらやま

源仲基

源仲基

いづれかたの世の世のまじりてはうらやましくありてはうらやま

いづれかたの世の世のまじりてはうらやましくありてはうらやま

いづれかたの世の世のまじりてはうらやましくありてはうらやま

夫人

日

我のうらやまのまじりてはうらやましくありてはうらやま

冬梅 三行分

百三十四

源仲基

いづれかたの世の世のまじりてはうらやましくありてはうらやま

源仲基

源仲基

いづれかたの世の世のまじりてはうらやましくありてはうらやま

いづれかたの世の世のまじりてはうらやましくありてはうらやま

源仲基

江二位 源隆

冬うき<sup>かき</sup>はりの梅もよみあつこころりやれ花も

あまき冬あやち 日

まらうこけの梅いありたぐもなるそねるのよ

西暦二年百首出表 日

あま<sup>かき</sup>うき<sup>かき</sup>の梅乃ありひそそやそまはらうの

あまき二年百首冬年 民アなる家

まはらうそまもあつこころりやれ花のほし

あまき 日

じつこころりまのこころりやれ花と折

あまき

梅の院う何百とあまき 指大綱こころり

あまき<sup>年</sup>とるそあまき<sup>年</sup>あまき<sup>年</sup>あまき<sup>年</sup>あまき<sup>年</sup>

日 大綱を師折る

あまき<sup>年</sup>あまき<sup>年</sup>あまき<sup>年</sup>あまき<sup>年</sup>あまき<sup>年</sup>

あまき<sup>年</sup>あまき<sup>年</sup>

あまき<sup>年</sup>あまき<sup>年</sup>あまき<sup>年</sup>あまき<sup>年</sup>あまき<sup>年</sup>

日 隆原は師

あまき<sup>年</sup>あまき<sup>年</sup>あまき<sup>年</sup>あまき<sup>年</sup>あまき<sup>年</sup>

あまき<sup>年</sup>あまき<sup>年</sup>あまき<sup>年</sup>あまき<sup>年</sup>あまき<sup>年</sup>





今もさう<sup>民</sup>屋のさうりたれとてさうちの山よふすじ<sup>ま</sup>

田集申

坂巻院の御歌

うらうら<sup>ま</sup>ふすこ<sup>の</sup>飯のう<sup>ら</sup>や<sup>の</sup>り<sup>し</sup>こ<sup>の</sup>め<sup>す</sup>こ<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>ふ

百首四年

お西門院の御歌

<sup>新編古今</sup>いそあ<sup>ら</sup>く<sup>と</sup>さ<sup>ら</sup>ひ<sup>と</sup>ら<sup>れ</sup>た<sup>あ</sup>や<sup>う</sup>の<sup>り</sup>と<sup>ら</sup>う<sup>す</sup>こ<sup>の</sup>飯<sup>の</sup>里

冬の中

お西門院の御歌

け<sup>の</sup>り<sup>の</sup>松<sup>れ</sup>す<sup>こ</sup>の<sup>飯</sup>と<sup>ら</sup>て<sup>た</sup>い<sup>と</sup>さ<sup>ら</sup>う<sup>す</sup>こ<sup>の</sup>飯<sup>の</sup>里

冬の中

後念寺の御歌

あ<sup>ら</sup>の<sup>り</sup>と<sup>ら</sup>ふ<sup>し</sup>と<sup>ら</sup>ぬ<sup>は</sup>ら<sup>ふ</sup>よ<sup>す</sup>こ<sup>の</sup>飯<sup>の</sup>里

貞享三年百首とて炭電

東の御歌

炭<sup>の</sup>飯<sup>の</sup>里<sup>の</sup>さ<sup>ら</sup>う<sup>の</sup>り<sup>と</sup>ら<sup>ぬ</sup>は<sup>ら</sup>ふ<sup>よ</sup>す<sup>こ</sup>の<sup>飯</sup>の<sup>里</sup>

寛政元年廿四日百首とて炭電

西園寺の御歌

あ<sup>ら</sup>の<sup>り</sup>と<sup>ら</sup>ふ<sup>し</sup>と<sup>ら</sup>ぬ<sup>は</sup>ら<sup>ふ</sup>よ<sup>す</sup>こ<sup>の</sup>飯<sup>の</sup>里

後念寺の御歌

す<sup>ま</sup>い<sup>の</sup>り<sup>と</sup>ら<sup>ぬ</sup>は<sup>ら</sup>ふ<sup>よ</sup>す<sup>こ</sup>の<sup>飯</sup>の<sup>里</sup>

貞享八年百首とて炭電

後念寺の御歌

い<sup>そ</sup>あ<sup>ら</sup>く<sup>と</sup>さ<sup>ら</sup>ひ<sup>と</sup>ら<sup>れ</sup>た<sup>あ</sup>や<sup>う</sup>の<sup>り</sup>と<sup>ら</sup>う<sup>す</sup>こ<sup>の</sup>飯<sup>の</sup>里

冬の中

後念寺の御歌

お西門院の御歌

日  
法橋元始

日  
中文拾遺

日  
中支拾遺

日  
世の中

日  
世の中

日  
世の中

日  
世の中

佛名 三行分

日  
世の中

日  
世の中

日  
世の中

あまのついでに... 後... 綿引

あまのついでに... 後... 今

あまのついでに... 後... 更

あまのついでに... 後... 立

あまのついでに... 後... 心

あまのついでに... 後... 心

あまのついでに... 後... 心

あまのついでに... 後... 心

あまのついでに... 後... 心

あまのついでに... 後... 心

あまのついでに... 後... 心

あまのついでに... 後... 心

あまのついでに... 後... 心

あまのついでに... 後... 心

あまのついでに... 後... 心

あまのついでに... 後... 心

あまのついでに... 後... 心

あまのついでに... 後... 心

あまのついでに... 後... 心

あまのついでに... 後... 心

あまのついでに... 後... 心

あまのついでに... 後... 心

あまのついでに... 後... 心

あまのついでに... 後... 心

中世十年一政事の成り  
朝

指し傳ねたる

今

うらやまの心は  
元

可

意

あつた心は  
あつた心

爐  
燭  
三行分大

曲儀百首短大

白志書文書後大

あつた心は  
あつた心

文治十年一五社百首  
可

うらやまの心は  
うらやまの心

あつた心は  
あつた心

うらやまの心は  
うらやまの心

あつた心は  
あつた心

うらやまの心は  
うらやまの心

あつた心は  
あつた心

うらやまの心は  
うらやまの心

あつた心は  
あつた心

うらやまの心は  
うらやまの心

あつた心は  
あつた心

うらやまの心は  
うらやまの心

あつた心は

430

Handwritten text in cursive script, starting with a large initial letter.

鄭言非紙也

卜部急也

Handwritten text with red annotations, including the character '家' at the top.

孫河院之可百首

孫河院之可百首

Handwritten text with red annotations, including the characters '年' and '教'.

孫河院之可百首

Handwritten text with red annotations, including the character '年'.

孫河院之可百首

Handwritten text with red annotations, including the characters '續後拾哀傷'.

Handwritten text with red annotations, including the characters '歲言' and '三行八十九'.

歲言 三行八十九

Handwritten text with red annotations, including the character '埋'.

Handwritten text with red annotations, including the character '埋'.

山崎二年百首

或の日記也



後法皇の御願

文治元年一月廿一日

文治元年一月廿一日

後法皇御願

宣長元年一月廿一日

宣長元年一月廿一日

宣長

宣長元年一月廿一日

宣長元年一月廿一日

宣長元年

宣長元年

宣長元年一月廿一日

宣長元年

宣長元年

宣長元年一月廿一日

宣長元年一月廿一日

宣長元年一月廿一日

宣長元年

宣長元年

宣長元年一月廿一日

宣長元年

宣長元年

宣長元年一月廿一日

宣長元年

宣長元年





藤原

後白河

Handwritten cursive text, likely a signature or name, with red ink annotations.

Handwritten cursive text, likely a signature or name, with red ink annotations.

白河

藤原

Handwritten cursive text, likely a signature or name, with red ink annotations.

白河

藤原

Handwritten cursive text, likely a signature or name, with red ink annotations.

Handwritten cursive text, likely a signature or name, with red ink annotations.

Handwritten cursive text, likely a signature or name, with red ink annotations.

Handwritten cursive text, likely a signature or name, with red ink annotations.

Handwritten cursive text, likely a signature or name, with red ink annotations.



高  
あまのついでにさるるに  
あまのついでにさるるに

百三十一首  
あまのついでにさるるに

あまのついでにさるるに  
あまのついでにさるるに

百三十二首  
あまのついでにさるるに

あまのついでにさるるに  
あまのついでにさるるに

あまのついでにさるるに  
あまのついでにさるるに

百三十三首  
あまのついでにさるるに

あまのついでにさるるに  
あまのついでにさるるに

天木和歌抄卷第十八終

